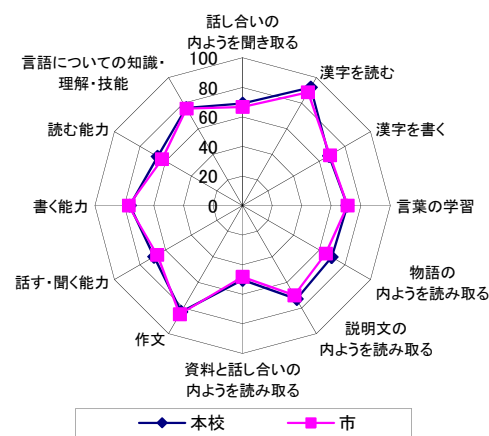


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	69.1	66.6
	漢字を読む	92.2	88.4
	漢字を書く	67.4	68.2
	言葉の学習	70.9	71.0
	物語の内ようを読み取る	69.6	64.9
	説明文の内ようを読み取る	73.0	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	50.2	48.3
	作文	83.0	84.9
観点別	話す・聞く能力	69.1	66.6
	書く能力	76.3	77.1
	読む能力	66.4	63.0
	言語についての知識・理解・技能	76.2	75.8



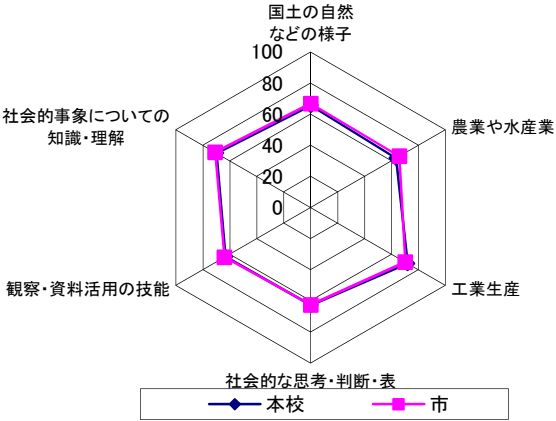
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・本領域全体の正答率は69.1%で、市の正答率を2.5ポイント上回っていた。すべての設問で正答率は市の平均を上回っていた。特に司会者の役割を理解して、適切な言葉づかいで話す聞く設問では3.8ポイント、話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る設問では2.6ポイント市の平均を上回っていた。	・学校生活の中で、常に教師や友達の話をしっかり聞き、内容を理解するよう、話を聞く態度が身に付くよう繰り返し指導をしていく。また、友達の意見を聞くときには、自分の意見との相違点をはっきりさせ、それをふまえて自分の意見が発表できるように、話し合い活動を積極的に授業の中に取り入れていく。
漢字	・「漢字を読む」ことの正答率は92.2%で、市の正答率を3.8ポイント上回っていた。「漢字を書く」ことの正答率は67.4%と市の正答率を0.8ポイント下回っていた。特に5年生の漢字の読みは、100%と完璧だった。また、漢字の書きは正答率が57.4%から74.8%と漢字によって差が大きく見られた。	・5年生の漢字の学習だけではなく、既習内容も含めた漢字練習を計画的に行っていくようにする。また、漢字を全教科の学習の中や、日記や連絡帳など生活の中で使えるように指導していく。
言葉の学習	・本領域全体の正答率は70.9%で、市の正答率を0.1ポイント下回っていた。漢字の成り立ちについて理解する設問では、36.5%と正答率が低かった。句読点の打ち方についての設問では、正答率が91.3%と高かった。	・漢字の成り立ちについては、漢字の意味を考える手掛かりになるという意識をもたせて、学習に取り組ませるようにする。文章を読むよう指導をするとともに、作文指導でも、適切な使い方ができるように指導していく。日頃から読書活動を推進したり、国語辞典に触れさせたりすることによって、言葉に対する意識を高められるよう指導をする。
物語の内ようを読み取る	・本領域全体の正答率は69.6%で、市の正答率を4.7ポイント上回っていた。場面の情景を読み取る設問では、市の正答率を8.4ポイント上回っている。	・読書活動を推進していくとともに、自分の好きな一文を書いたり、感想を発表する機会などを設定したりすることで質の高い読書ができるようにしていく。また、国語の物語文の読み取りでは、登場人物の心情の変化を考える手立てとなる心情曲線などを取り入れて指導していく。
説明文の内ようを読み取る	・本領域全体の正答率は73.0%で、市の正答率を2.9ポイント上回っていた。文章の内容を的確に読み取る設問では、市の正答率を8.1ポイント上回っている。	・何についての説明文なのかを明確にしながらい説明文を読めるように、意図的に説明文に触れさせていく。また、読む際には形式段落番号をつけ、意味段落にまとめ、さらに段落同士の関係が分かるように、段落構成図なども活用して指導する。キーワードに着目させ読むことなども意識させた指導をしていく。
資料と話し合いの内ようを読み取る	・本領域全体の正答率は50.2%で、市の正答率を1.9ポイント上回っていたが正答率は高いとは言えない。与えられた資料を読み取り、求められている情報を的確に取り出す設問では、市の正答率を3.9ポイント上回っているとは言え、正答率43.9%は低い。	・資料を読むときには、何に着目されて書かれた資料かを考えて読む習慣を身に付けさせる指導をしていく。そのためには教材文だけではなく、日頃から新聞記事等に触れる機会を設けていく。また、読み比べるなどの観点を押さえられるよう具体例を示しながら指導していく。
作文	・本領域全体の正答率は83.0%で、市の正答率84.3%を1.9ポイント下回った。指定された長さで文章を書くことが83.5%、二段落構成で文章を書くことが60.9%、自分の意見とその理由を区別して書くことが、91.3%だった。	・作文を書く機会を多くもつようにする。生活作文だけではなく、行事の感想や保護者へ知らせたいこと、お礼の手紙など、用途に合わせた作文が書けるように指導する。また、文字数や書く内容を決めるなど、条件に合わせた作文も書けるように指導する。

宇都宮市立富士見小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	65.6	66.7
	農業や水産業	63.4	65.8
	工業生産	71.8	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.7	62.7
	観察・資料活用・技能	63.3	64.1
	社会的事象についての知識・理解	70.0	70.9



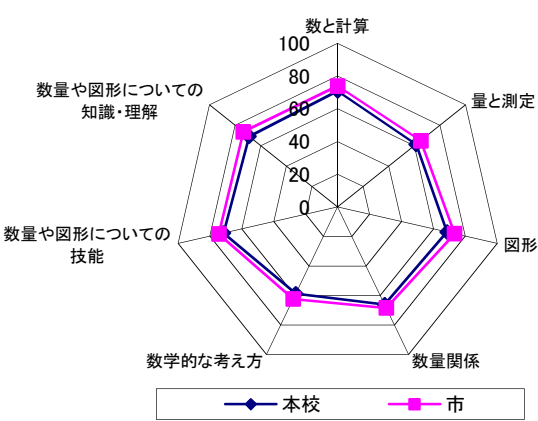
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	・本領域全体の正答率は65. 6%で市の正答率66. 7%を1. 1ポイント下回った。アメリカの名称と位置の正答率は86. 1%で市の平均を3. 3ポイントと上回った。また日本の特色ある気候の正答率は36. 5%で市の平均を4. 1ポイント上回った。	・地図を見る機会を多くもたせるなどして、世界の主な大陸や海洋の名称と位置など、また、日本の近隣の国の位置と名称や国旗など、基礎的なことを身に付けられるよう指導していく。また、日本の国土や気候などについても、場所と気候の特色を結びつけて覚えられるよう指導する。
農業や水産業	・本領域全体の正答率は63. 4%で市の正答率65. 8%を2. 4ポイント下回った。日本の米作りの工夫は正答率83. 5%で市の正答率を2. 8ポイント下回った。肉類の自給率の正答率は市の平均を上回っていた。	・日本の農業や水産業に興味を持てるよう、生活と結びつけて考えられるよう支援する。また、適切な資料を選び活用できるように、多くの資料に触れさせ、資料の活用に慣れさせる指導をする。
工業生産	・本領域全体の正答率は70. 8%で市の正答率70. 9%を0. 9ポイント下回った。自動車を作る工業の正答率は88. 7%、工業生産と工業地域の正答率は64. %で、市の平均を上回っていた。	・工業地域や工業地帯を名称と位置、生産の特徴などを結びつけて覚えられるよう指導をする。また、日本の輸出入の特徴についても正しく理解させるとともに、適切な資料活用ができるよう指導する。

宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	70.8	73.9
	量と測定	61.3	65.0
	図形	68.5	73.2
	数量関係	66.2	68.5
観点別	数学的な考え方	58.8	62.4
	数量や図形についての技能	71.4	74.4
	数量や図形についての知識・理解	69.1	73.6



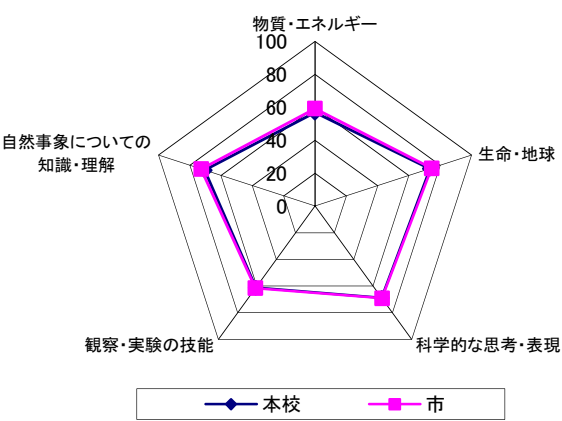
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の平均正答率は、70. 8%で他の領域より高い正答率である。しかし、市の平均よりおよそ3ポイント下回る。 ・帯分数＋帯分数の問題では、94. 7%と市の平均を上回り高い正答率であった。しかし、分数と小数の大小比較の問題では市の平均より10ポイント下回った。	・他の領域より得意とする領域ではあるが、さらに正確に答えが出せるように計算ドリルを活用して、練習する。 ・基礎的な計算や概数の問題については、今後も授業だけでなく、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習し、正確に計算できるようにする。
量と測定	・本校の平均正答率は、61. 3%で領域の中で最も低い正答率である。市の平均よりも下回る。 ・単位量あたりの大きさや平均を求める問題では、市の平均より正答率は上回ったが、体積を求める問題で市の平均より正答率が下回った。	・展開図から直方体の体積を求める問題では、体積を求める公式からどの部分を縦・横・高さとするかなど、自分の考えをよく整理して問題を解いていくことを、今後も授業の中で繰り返し指導する。 ・面積や体積を求める公式を確認し、プリントなどの多くの練習問題にあたる。
図形	・本校の平均正答率は、68. 5%で市の平均73. 2%より下回る。 ・「垂直・平行と四角形」の問題では、正答率が市の平均と同じであったが、「図形の角」や「合同・立体」の問題では、市の平均を下回った。	・角の問題では、三角形や四角形の内角の和が決まっていることから角を計算で求められること、また六角形の内角の和を求める式がわかるなど復習し、プリント問題等で練習する。 ・「角柱と円柱」の単元で、既習の立体についても復習して学習する。
数量関係	・本校の平均正答率は、66. 2%で市の平均よりおよそ2ポイント下回る。 ・「計算のきまり・変わり方調べ」の2つの問題で、正答率が62. 3%と70. 2%となり、それぞれ市の平均よりおよそ2ポイント下回った。	・比例の関係式の求め方や、計算を結合・分配などの法則を使って工夫して解く問題は、今後も授業の中で丁寧に指導し、理解が深められるようにする。

宇都宮市立富士見小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	56.8	59.3
	生命・地球	73.4	74.4
観点別	科学的な思考・表現	68.9	69.2
	観察・実験の技能	61.3	61.6
	自然事象についての知識・理解	70.5	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・「物質・エネルギー」の領域全体の正答率は56.8%で、市の平均より2.5ポイント低い正答率であった。 ・「もののあたたまり方」の問題では、空気のあたたまり方で74.6%、金属のあたたまり方で87.7%と市の平均より高い正答率であったが、「ものの体積と温度」と「水のすがた」の問題では、全体的に市の平均より低い正答率であった。	・この領域の問題内容は、すべて4年生の学習内容であった。今後の学習の中で関連づけて振り返ったり、定期的に復習したりする。 ・「水のすがた」「ものの体積と温度」については、日常生活の中で自然事象に着目させ、理解の定着を図る。
生命・地球	・「生命・地球」の領域全体の正答率は73.4%で、市の平均より1ポイント低い正答率であった。 ・「水のゆくえ」水の蒸発の問題、「植物の発芽と生長」種子の養分の問題、「魚のたんじょう」メスとオスの見分け方の問題では、86%以上の高い正答率であったが、「けんび鏡の使い方」の倍率の問題と「雲と天気の変化」の予報の問題では、50%以下の低い正答率であった。	・教室でのメダカの飼育、ベランダでのカボチャの栽培のように身近に観察の場を設定する。 ・実験・観察をできるだけ多く体験させ、理科への興味関心を高めるだけでなく、学習内容の定着や深化が図れるよう指導を工夫する。